

第54回

下水道の日作品コンクール

入賞作品集



埼玉県
埼玉県下水道協会
公益財団法人埼玉県下水道公社

このたび、第54回「下水道の日」の記念事業として、標語・ポスター・書道・新聞及び作文の募集を行ったところ、多くの皆様から数々の優れた作品の応募をいただき、厚く御礼申し上げます。



9月10日は 下水道の日

下水道は、風呂やトイレ等で使った水をきれいにして川に戻します。そのため、川や海の水質環境保全やトイレの水洗化による悪臭、蠅や蚊など害虫の発生を抑制するなど、人々が清潔で快適な生活のためになくなくてはならない都市基盤施設です。また、都市に降った雨水を集めて流すことにより、浸水から街を守っています。

「下水道の日」は、1961年(昭和36年)に下水道の普及およびアピールを図るために「全国下水道促進デー」として定められたものが始まりです。

当時は下水道の普及が著しく遅れており、また経済が高度成長した反面、生活環境や公共用水域の悪化が著しくなっており、下水道の整備・促進に対する要望が高まっていました。

それから40年が経過し、2001年(平成13年)が21世紀のスタートの年でもあることから、より親しみのある「下水道の日」に名称が変更されました。

9月10日と定められたのは、下水道の大きな役割の一つである「雨水の排除」を念頭に、台風シーズンである210日を過ぎた220日(立春から数えて)が最適であるとされたためです。

毎年、9月10日を中心とした前後1週間に、下水道に対する理解や関心を深めていただくため、下水道事業者である地方公共団体などが様々な催しを全国で開催しています。

埼玉県においては、埼玉県、埼玉県下水道協会および公益財団法人埼玉県下水道公社の三者が共催し、「下水道の日」の記念事業として、「作品コンクール」や水循環センターを見学する「下水道の日の集い」を実施しております。



標語部門 2ページ

ポスター部門

小学校低学年の部 3ページ
小学校高学年の部 4ページ
中学生の部 5ページ

書道部門

小学校低学年の部 6ページ
小学校高学年の部 7ページ
中学生の部 8ページ

新聞部門

小学校高学年の部 9ページ

作文部門

小学校高学年の部 12ページ
中学生の部 17ページ

埼玉県知事賞

未来都市 空と緑と 下水道

さいたま市立大谷場小学校5年

山中叶

埼玉県下水道協会会長賞

下水道 活かして光る 青い海

秩父郡皆野町

中田 孝久

入選

おみずさん うみやプールで まってるね

草加市立新里小学校1年

成島 紗智

入選

今キミが 流した水は 地球の資源

さいたま市立大谷場小学校6年

松本 未央

入選

まずはぼく 未来の水と 人のため

越谷市立越ヶ谷小学校5年

田巻 陸

入選



秩父市立秩父第一小学校 3年
強矢 妃

入選



嵐山町立志賀小学校 3年
酒井 琉光

入選



川口市立幸町小学校 3年
木本 湧久

埼玉県知事賞



秩父市立影森小学校 3年
櫻井 莉子

埼玉県下水道協会会長賞



さいたま市立向小学校 2年
中村 心葉

埼玉県下水道協会会長賞



さいたま市立浦和大里小学校 5年
新井 すず

埼玉県知事賞



小川町立八和田小学校 5年
高橋 勇

入選



行田市立東小学校 6年
土井 颯

入選



行田市立西小学校 6年
志田 翔麻

入選



川越市立大塚小学校 6年
佐藤 菜月



埼玉県下水道協会会長賞



深谷市立川本中学校 2年
飯塚 南美



埼玉県知事賞



行田市立忍中学校 3年
藤本 優希



入選



さいたま市立与野南中学校 3年
島田 佳恵



入選



さいたま市立原山中学校 2年
酒井 陽菜



入選



さいたま市立大原中学校 1年
片瀬 さくら

埼玉県下水道協会会長賞

埼玉県知事賞



川島町立小見野小学校 3年

松崎 俊



鴻巣市立広田小学校 2年

齋藤 優香



川島町立中山小学校 2年

厚木 瑠奈



春日部市立八木崎小学校 3年

武田 夏依



さいたま市立上里小学校 3年

松井 美桜



志木市立宗岡小学校 3年

柳川 愛来



上尾市立瓦葺小学校 3年

伊藤 侑花



埼玉県下水道協会会長賞



川島町立小見野小学校 5年
松崎 志織



埼玉県知事賞



春日部市立八木崎小学校 6年
三浦 佳菜美



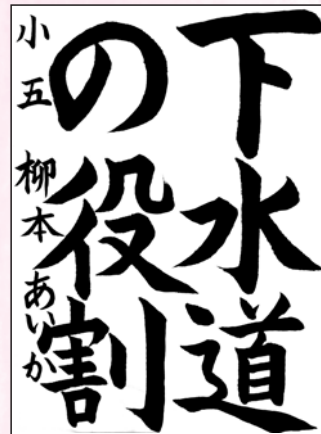
入選



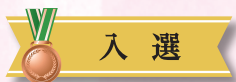
鴻巣市立鴻巣南小学校 5年
川村 悠花



入選



春日部市立八木崎小学校 5年
柳本 あいか



入選



春日部市立粕壁小学校 6年
瀬川 朱里



入選



鴻巣市立広田小学校 4年
齋藤 直人



入選



吉見町立西が丘小学校 6年
黒澤 日菜

埼玉県下水道協会会長賞

埼玉県知事賞

中一年
と下水道環境
浅井美紅

春日部市立葛飾中学校 1年
浅井 美紅

二年
と下水道環境
大石真衣

川島町立川島中学校 2年
大石 真衣

入選

入選

中三年
と下水道環境
樋口めぐみ

上尾市立上尾中学校 3年
樋口 めぐみ

中二年
と下水道環境
角倉希乃香

鴻巣市立鴻巣中学校 2年
角倉 希乃香

入選

入選

入選

中二年
と下水道環境
加藤紗英

鴻巣市立鴻巣中学校 2年
加藤 紗英

中二年
と下水道環境
齋地菜月

鴻巣市立鴻巣中学校 2年
齋地 菜月

中三
と下水道環境
島崎加恩

鴻巣市立吹上北中学校 3年
島崎 加恩

埼玉県知事賞

下水道新聞1号

汚泥がへん〜ん!!

下水処理をするとき大量に水汚泥(下り)がでます。汚泥をタンクにためておくこと、ガスが出る。そのガスをためて燃焼して作る。燃焼場にもあります。ガスは、バスの燃料として使う。プロパンガスが始まっているよ〜ん。

その他汚泥で使われているレシカやパルプセルロース、紙や人間の工産物にも使われています。

生まれがわる下水

このように、ぼくの住んでいる深谷市では、下水が浄化センターで処理され、川に流さず、浄化センターで処理され、また下水道に生まれかわっているのよ〜ん。

汚れた水のゆくえ

水道からきた水をぼくたちはさまざまな所で使っています。その水は、いったいどこに行くのでしょうか。台所、洗面所、トイレ、洗たなどの家庭で使った水、給食、プール、学校で使った水、その他町に流した水、雨どい、地中にのぼれている下水道管を通じて、下水処理場に集められます。そして、下水処理場で汚れた水をきれいにし、川や海に流しています。

そのままだと川に流すと、川が汚れたり、悪臭や全・カの発生により、病気が流行したりします。

(発行) 8月16日(土)
(発行所) 5年2組
青柳大智

浄化センターのしくみ

下水中のゴミや土砂を取り除く。下水を静かに流しこんで汚泥を沈めさせる。(約2時間)

微生物が下水をきれいにする。空気もあきこむ。(約6時間)

下水を静かに流しこんで汚泥を沈めさせる。(約5時間)

塩素で消毒して安全な水にする。

沈砂池 最初沈み池 エアレーション池 最終沈み池 塩素混和池

濃縮槽 汚泥脱水機

こんなにあったよ

学校の周りのマンホールやますがごとくにあるのかとのか、あるのか調べてみました。

コイもがんばっている

最終沈み池には、たくさんのコイが元気に泳いでいました。コイの様子の変化で、水の異変がわかるそうです。汚れた下水が、微生物によりコイが住めるまできれいになったということ。

微生物の働き

浄化センターは、水をきれいで、保つための微生物の働きで、二十四時間働いてくれています。その働きで、一番がんばっているのは、小さな生き物達です。

汚れた水は、「微生物」といって見ると、小さな生き物達が汚れた水を食べてきれいにしてくれています。見ると、体の人が見せていたときは、ロタリウム、ペラチア、イロデラ、ボルネラという微生物がいました。たくさん種類の微生物がいます。水、その日によって、生き物も変わります。

編集後記

ぼくたちの生活は下水道によって守られていることがわかって、大きな生活の力を感じました。下水道の水を正しく使って、きれいな生活を送りたいと思います。

ばく達にもできる事!

フライパンやお皿に残った油やソース、ケチャップなどは古びたもの、お皿に洗った油は牛乳パックに新聞を切を入れて、その中に流し入れて燃える缶に入れて、油を使いきれいな油。

自分の家の周りの排水こう付直は、ゴミや枯れ葉が入らないようにしようとする。



埼玉県知事賞

きれいな水にもどす道

春日部市立川辺小学校 四年

竹田 煌太郎

ぼくの家の近くにはじょう水場があります。夏休みの前に、ぼくは学校の社会体けん学習でそのじょう水場に行きました。ぼくたちの地いきでは江戸川の水を使っています。もちろんそのままでは使えません。だから、そのじょう水場でいろいろな仕組みや機かい、薬などを使つて、長い時間をかけて川の水を飲めるようにしているのです。じょう水場の人の話を聞いて、きれいな水を作るのは本当にたいへんだなあと思いました。

でも、ぼくたちはそのきれいな水を、食器をあらったり、せんたくをしたりするとき、じゃぶじゃぶ使ってしまったっています。毎日、お風呂で大量に使つて、水を流しています。

「あれ、よごれた水はどうなるのかなあ。」

「川にまたもどしちゃうのかなあ。」
「うえっ、トイレで流した水をまた飲むことになるのかなあ。」

考えてみると、使った水の行き先がちよつと心配になってきました。そこで、ぼくは夏休みにみさと市の中川水じゅんかんセンターに行つて、使った水の行き先を調べることになりました。

下水道を通ってきたよごれた水は、中川水じゅんかんセンターにやってきました。最初はちん砂池で砂を使つて大まかなゴミを取りのぞ

きます。次にちんでん池に汚水はたまります。ぼくは、最初にそのちんでん池を見学しました。そのちんでん池の近くに行ったとたん、くさいにおいがしてきて、頭がくらくらしてきました。そのにおいはとてもくさくて、まるでぼろぼろのこわれたトイレの中にいる感じがしました。ぼくは、こんなにくさい水がどうやってきれいな水になるのか心配になりました。

次にこの水は反応タンクに集められます。反応タンクでは、び生物を使つて水をきれいにします。び生物がよごれを分かいてくれるのです。この場所を見学したときはもうくさいにおいはなくなっていました。しかし、まだ水はにごっていて、きれいな水とは言えませんでした。その後、このにごった水はいろいろなこうていを通して、消どくそ



埼玉県下水道協会会長賞

道路の下の影役者

さいたま市立大宮小学校 五年

藤本 頼和

「また雨かしら」

お母さんがつぶやいた。梅雨の時期、日本には大量の雨が毎日のようにふる。その日の雨は予想以上に強く、何十ミリという大雨をもたらした。しかし、地面にはつきりとした黒のコンクリートが見える。地面は確かにびしょびしょだが、水はマンホールなどにすいこまれていく。日本のぎじゅつはすごいと感じた。こんなにも大量の水をまたきれいにしてから川に返すというのは大変な作業だが、それをやらなければ、川の水がよごれてしま

うに集められて消どくされます。

ぼくは、中川水じゅんかんセンターでの実験に参加しましたが、この消どくそうまでできた水はにおいもなく、本当にきれいなすき通った水でした。みなさんはこのきれいな水を飲むことができますか。思いますか。ざんねんなことに、このきれいな水はただ川に流すだけなのです。ここまでやるとたどりついた水は、ゴールした水ではなく、スタートしたばかりの水なのです。

このように、家から流された水はたいへんな苦ろうをしてやると川や海に流されます。少しでもその苦ろうをへらすために、ぼくたちには何ができるでしょうか。

お風呂ののこり湯をせんたくに使用したり、水の出しっぱなしはやめたり、車をあらうときは、バケツにためてあらうなど、むだな水をでき

るだけ下水道に流さないようにしなくてははいけません。また、食器についた油は紙できれいにふきとったあとにあらうなど、きれいな水にするための苦ろうをできるだけかけないようにしなくてははいけません。よごれすぎた水はび生物でも分かishiきれないかもしれません。

ぼくは今まで以上に、水をむだに下水道に流さないように気をつけたいです。苦ろうしてきれいになって川や海にもどって、また、苦ろうして飲めるようになった水をもっと大切にしていきたいです。家では水をできるだけ役立てて、やさしく下水道に帰してあげたいと思います。そして、下水道に帰すときには「ごくろうさん。」と言って流してあげたいです。

う。下水道関係の方々が努力を重ねてきたからこそ、今の世界が成りたっていると思った。

ところが、それがまだゆきとどいていない国がまだまだ多くあるということに、ぼくはとてもおどろいた。

ぼくのお父さんは、水道や橋の設計をまだあまり発てんしていない国で行っている。二年前にお父さんが出張しているフィリピンのマニラに遊びにいったとき、その日も夕方に雨がふった。それほどはげしい雨ではなかったのだが、外を見ればみるみる雨が道にたまり、雨がやんだ約一時間後には町全体が大きな川になっていた。ぼくはおどろいた。日本で最近みた記録的大雨の台風と同じようなじょうたいである。首都マニラにはビルもたくさん建っているし、道路も整備されている。にも関わらず、町は川になっている。なぜこのような都市に川がで

きるのか、とても不思議だった。現地の人々もふだん通り、なにくわぬ顔で行動している。その様子を見たお父さんは

「日本は排水設備がととのっているから水があふれて道路が川のようになることはほとんどない。でも、フィリンでは設備があまりととのっていない。水があふれると病気などのまんえんや悪臭にもつながるからこの国は、水道をととのえていかなければならない。」

と説明してくれた。このフィリンの現じょうを知った今、下水道の設備について考えなければならぬと思った。そのような設備について一番よく知っていると思うお父さんには、これからもがんばってほしい。たった一人の努力だけでなく、一人一人が努力すれば、世界中の排水設備がととのう時がきつと来ると思う。排水設備をと

とのえることは、フィリピンの今の一番の課題ではないかとぼくは思った。

日本は排水設備がととのっているから困ることはほとんどない。でも、ととのっているから、下水道について学んだり、はだでその大切さを感じることはあまりないのだ。これからは、設備がととのっているからこそ、下水道や排水設備についてより知るべきだと思う。また、世界にはまだまだ設備がととのっていない国がたくさんあるということ、自分で感じる必要があるのではないかと思う。

下水道が進歩すれば人はよりくらしやすくなるはずだ。だから、ぼくは今からでも、何が自分にできるかを考えていきたい。みんなが考えていけば必ず排水設備が進んでんするための力になると思う。



入選

働き物の下水道

久喜市立砂原小学校 四年

松本 千恵子

私はふだん生活の中で下水道についてあまり考えたことがありませんでした。けれど家や学校などで使っている水が下水道へ流れていることは知っていました。そこで、もっと下水道のことについて知りたいと思い、父と下水しよりに場へ行き、お話をうかがってきました。

下水道は、二十四時間休まず動いているそうです。もし、一時間でも休んでしまったら、家などで使った水が下水しよりに場へとどかなくなってしまう。そうになったら水道管が詰まってしまい、よごれた水があふれでてきてしまいます。私は、そんなことになったら町の人たち

や処理場の人たちが困ると思いました。

次に、おどろいた事は、トイレで使うトイレットペーパーです。トイレでは、ぜったいにトイレットペーパー以外流してはいけないということです。なぜかというと、トイレットペーパーは水によく溶ける紙でできていますが、ティッシュペーパーは水の流れがいくら強くても溶ける性質の紙を使っていないため、流してしまうと下水管などにつまってしまう、流しても流れなくなってしまう、きたない水があふれ出てきてしまうこともあるということです。トイレも今は水せん式を使っていますが、昔は、下水道がなかったのは、はいせつづぶつは穴にためて、それをくみあげてしよりにしていたそうです。とても便利な時代になっていると思いました。

さらに、初めて知ったことがあります。それは、下水は小さなび生物の力のおかげで水をきれいにして川へ流してい

るということです。もし使った水をそのまま流していたら、川の生き物たちがぎたない水の中で生活するので、住めなくなってしまう。そんなことにならないために、び生物と空気をまぜた水できれいな水にかえているということがわかりました。

下水道のことを調べてみると、「下水道は働き物だな。」と感じました。私たちの生活は、ただじゃぐちをひねるときれない水がでてきます。その水は下水しよりに場の方々や水の中で生きているび生物のおかげで私たちに届けられています。毎日安全な水を飲んだり、使ったりできるのも、たくさんの人達の協力があるからだと思います。私にできることは、はい水口に流して良い物わるい物のくべつをして、生ごみなどの、下水管につまるようなものは流さないように気をつけて、水をむだ使いたくないようにしていきたいです。



夏休み親子下水道教室 に参加して

三郷市立新和小学校 四年

堀川 桜生

私は、七月二十八日に中川水循環センターで行われた「夏休み親子下水道教室」に参加しました。下水道とは、かんとんにいうと家庭で使われたよごれた水をきれいにして川や海に返す役わりをしているそうです。また、都市にふった雨を排除するために作られた水路も下水道に分類されるそうです。私は、家庭で使われた水は、とてもきたないのに下水道のおかげでどうめいのきれいな水になるので、すごい！下水道と思いました。

そして、私が一番楽しかったことは、水質実験です。その中でも心に残った実

験は、微生物の観察です。けんびきょうをのぞいて、色々な微生物を観察しました。アルセラやいたちむし、エピスティリスなどたくさん微生物を観察しました。その中でもとても大きくて、はでに動く微生物がいたので色々説明してくれた方に見てもらおうとクマムシだということが分かりました。クマムシとは、足が八本で水がなくても百二十年生きてられるめずらしい微生物だそうです。私たちがきれいな水で生活できるのも微生物のおかげなので、もっと微生物のことを詳しく知りたくなりました。

私が一番おどろいたことは、きたない水をきれいにするまでです。そこで微生物が小さなゴミを食べてくれたりするので大かつやくします。最初ちんでんち、はんのうタンク、最終ちんでん水をきれいにして、全部で十二時間かかるそうです。そして一日で三百万円電気がかかるそうです。私の想ぞうをはる

かにこえた金がかくでした。

下水道の歴史についてもとてもきょうみがかもてました。下水道は、古くは紀元前二千年に下水道があったものと考えられているそうです。文明が栄えるためには、下水道が不可欠だったとも考えられるそうです。私は、下水道は古くからあると思ひもしなかつたので昔の人は自分の頭だけで下水道をつくつたのでたくさん勉強して知しきを高めたんだと思ひました。

下水道教室には、理科が苦手な私のためにお母さんがおうぼしてくれました。行く前に下水道などの本を読んだけど下水道教室に行ったら本では理解できなかつた微生物の役割や下水道のしくみなどがわかりました。せんざいを使ひすぎない、食べ残しをしないことなどで水をきれいに保ち、環境にもいいくらしができるので、自分から積極的に取り組んで行きたいと思ひました。



埼玉県知事賞

下水道の必要性

毛呂山町立毛呂山中学校 三年

水村 麗奈

私のお父さんは浄水場で働いています。そこで、浄水場の役割について聞いてみることにしました。浄水場とは、川から採取した水を上水道の形で利用可能にするための施設なんだそうです。自然の水を浄水場が飲料用や料理用に使えるレベルまできれいにしてくれるのです。「それなら、下水道って必要なのくない？」私はそう思いました。しかし、私はすぐに自分の考えが間違っていることに気づきました。

私は、様々な不純物が浮き、ごみと一緒に水の流れる汚れた用水路を見たこ

とがあります。もしも下水道がなかったらどうでしょうか。そのような汚水はそのまま川へ垂れ流されることになります。魚などの生き物達は生きる事はできなくなり、私達人間の食事にも大きく影響してきます。また、海へ流れた汚水は巡り巡って雨となり、川の水として流れてきます。そうなると、もう浄水場だけで水をきれいにするのは難しくなってくるでしょう。さらに悪臭などの問題もたくさん出てくるはずです。水は循環しています。汚れた水をそのまま自然に還してしまうと、水は汚れたままで私達の生活に影響を及ぼすことになります。それを防ぐために下水道があることを知りました。下水道は私達の出した汚水が川へ流れ出る前に汚れを取り除き、水をきれいにしてくれます。他にも、雨水を処理して浸水から街を守る役割もあるそうです。私達の生活は水なくては成り立ちませ

ん。そして、そんな私達の生活を影から支えてくれていたのは、実は下水道だったんだと深く感じる事ができました。

「自分に何かできることはないか。」そう思い、私はできることを調べてみることにしました。使った後の天ぷら油コップ一杯分を流すと、その汚れた水をきれいにするためには、なんと風呂おけ三百三十杯分もの水が必要となってしまうことがわかりました。古い油は不用になった紙などに染み込ませ、燃えるゴミとして出す、ただそれだけで多くの水が無駄にならずにすむのです。また、こまめに蛇口を閉める、シャンプーの使用量は多くなりすぎないようにする、など少し意識するだけで簡単に取りくめることがたくさん見つかりました。もし全ての人が一人、こつした事を意識することができれば、川も、海も、とてもきれいに

なつていくと思います。

現在、水の汚染を原因とする赤潮の大量発生や養殖への影響など、世界各地で様々な問題が起こっています。しかし、私達が下水道への感謝の気持ちをお忘れず、きれいな水を保とうという意識を一人一人が持てるようになれば、状況は少しずつ変わっていくのではないのでしょうか？



埼玉県下水道協会会長賞

下水道は素晴らしい

川口市立芝東中学校 一年

石原 悠佑

私が下水道を考えるきっかけになったことは、飲み水を作るにはどう

したらいいかと思ったことでした。災害で人々が、手持ちのポリタンクに水をくんでいる様子を見て、もし道が遮断され給水車が来なかったら、自分で飲み水を作れるのか試してみたくありませんでした。

自分で簡単にそろえられる、ペットボトル、砂、小石、布、木炭でろ過装置を作り、実際に汚水などをろ過しました。汚水は少し色が残りましたが、かなり透明になり、一見すると飲めそうな感じですが、でもおそらく、目に見えない菌がいてそのままでは飲めない水です。次に、絵の具を溶かした色水と、墨汁を溶かした水をろ過してみました。すると、全くと言っていいほどろ過できません。墨汁の水を十回ろ過してようやく薄くなる感じでした。この実験をして、飲み水を作るのは大変だなと実感しました。

そこで、元になる水がきれいなら

ば、ろ過が簡単にでき、飲み水を作りやすくなるはずですが、私が住んでいる地域は利根川水系の水道水ですが、私たちが使った水も排水され、直接ではありませんが巡り巡って、自分の口に入るといことになるのだと思います。ということは、「元になる水」である大切な川を守るためにも、「捨てる水」をきちんとしなければいけないのです。

ろ過の実験をしていると、みるみる装置の中が汚れていくのがわかりました。一度のろ過でもかなり汚れてしまいます。そして、色水や墨汁は、自分の装置ではろ過できませんでした。実験では、汚水の種類を分けてできませんが、実際の生活排水では全てごちゃまぜになっています。私は今まで、捨てる水のことを考えたことがありませんでした。筆やパレット、すずりを洗ったり、真っ黒になった運動靴を

洗ったり、食事の後のお皿の汚れも洗って流しています。そこから家の下の下水道につながっていて流れていきます。毎日毎日休みなく流されて行くし、それが自分の家だけではなく日本中で、と思うと気が遠くなりました。自分で作ったる過装置が一体何個あったら川に流せる水に変えられるのでしょうか。それをきちんと、三百六十五日休みなく下水処理できる、日本の下水道と下水処理技術、そしてそれらを管理している方々やシステムは本当にすごいと思います。

自分で出した汚れた水が自分だけでなく川や海など自然に影響してしまいます。散らかしたら片づけ、汚したら掃除すると小さいころから言われてきましたが、では水はどうでしょう。ろ過実験でも分かりました。自分の力では到底できません。それを私たちの代わりに掃除してくれる

下水道のことを思っ、洗う前に油を拭く、運動靴の土は払ってから洗うなど、小さいけれど、自分でできることをして、「元になる水」を守るために水を大切に使うことだと思います。



入選

下水道の大切さ

毛呂山町立毛呂山中学校 三年

安永 周平

数年前、私の家の裏の道路まで、下水道管がひかれることになりました。私の家は、十数年前、いつせいに建てられた住宅地で、それまでは、近所はみな浄化槽というものを、使用していました。下水道がひかれることに決まった時、近所の人たちが「よかったね。」と話し

ていたことを覚えています。浄化槽の頃は、年に何度か点検の人がきて、何年かに一度、くみとりの作業がありました。その時は、独特のにおいに困惑したものです。近所で時期をずらして、そのような日があるものだから、その日は、窓をしめたり、洗たくものを気にしたりと、おたがいさまと思いつつうつつでした。年に二回行われる町の清掃日も、一度は側溝をあけて、たまった汚泥を土のう袋何個もだしていました。深いマスから人の手でくみあげるの大変な作業だったと思います。

そんなことも、下水道が完備されるからはなくなりました。浄化槽より、水をきれいにする力が何倍もすぐれているからだと思います。下水道が完備されたおかげで、私たちは以前より快適な生活をおくることができるようになりました。

下水道には、衛生的な生活を送れる

よう街をきれいにする役割のほか、浸水から街を守ったり、きれいな水辺をつくるという大切な役割もあるそうです。

降った雨をすばやく排除して、雨は「雨水」として下水道管をとおリ処理されるそうです。大雨のあとも、普段と同じように生活できるのは下水道管が、はりめぐらされているおかげだったのだと気づきました。

そして、最終的に、きれいな水辺をつくるということ。私たちが出す生活排水をきちんと浄化して、川や海などに戻すことで、水質をまもり、生態系を維持する大切な役割があるということをおぼえてはいけなと思いました。

私たちが、下水道管に、負担をかけてしまったら、下水道設備は、機能を充分発揮できないままになってしまいます。軽い気持ちでおとしたゴミや長年の油污れが、管をつまらせてしまうこ

ともあるかもしれません。一人一人の意識が大事だと実感しました。

今、快適なくらしがおくれるのは、設備がととのって、充分機能しているからだということ、一人一人が、気をつけて生活しなければ、いずれ自分たちが困るということを忘れずに、資源を大切にしていきたいと思いました。



浄化槽から

下水道になって

川口市立安行中学校 三年

京谷 弾

化槽というものを知りました。そして汲み取りというものもありました。

浄化槽とはトイレの汚水だけでなく、台所やお風呂などの生活排水も一緒に処理できるものでした。そして、その処理方法は微生物、バクテリアが悪い物を分解して、きれいにするという方法でした。僕はそれを聞いたときに驚くと同時にバクテリアの役割、大切さに関心しました。そして、年に何回かバクテリアがしっかり仕事をして水が清潔になっているかなどの点検をする業者の方が来てくださって、点検をしていただきました。汲み取りの時も臭いは少しあったけど大切な事だと思いはずだとは思いませんでした。

僕は大阪から引っ越してきて今、川口に住んでいます。大阪ではマンションに住んでいたのが下水道などについて考えた事がありませんでした。しかし、川口で一軒家に住んで初めて浄



埼玉県のマスコット **コバトン**



環境にやさしい大豆インキを使用しています。
再生紙を使用しています。